

夏は気が滅入る季節だ
蒸し暑さもさることながら、
夏休みという大型連休が特に
クセモノだ。

外に出ればキッズとヤング
レジャー気分家族連れなど
でひしめいている。

俺のような実家暮らしの
フリーター…端的に言えば
ろくでなしだとして

~~~~~

……きく

そういうものにはちょっと  
した圧迫感を覚えてしまう  
ものだ

~~~~~

……特に、その

娘であったり

ちんちん

なんか今日は
やけに暑いな…

それは身内の
帰省であったり

うん…

おじさん!!

!?

トキッ!!

…茉莉ちゃん

ムウ…



彼女の名前は
遠野茉莉ちゃん

俺の妹夫婦の娘
いわゆる姪っこというやつだ

毎年長い連休になつては
妹が連れて帰省し、
なにかと関わることが多い
やっと
起きた…

…来てたんだ
まつりちゃん

なつやすみ

もう
こんな時間か…

父親は仕事人間で
来れず、妹…母親は
出かけがち

陽子ママは？

じもとのともだちと
おでかけだつて
よろしく

あゝ…

必然というべきか、
比較的歳が近い俺が
彼女の相手としてあてがわれる

お昼ごはん
あるからいっしょに
食べよう

…が、正直なところ
俺はこの子のことを
すこし苦手としている

別に悪い子ではない。
……というよりも、
間違いないく良い子の
部類だ



大人顔負けどころではない
肉感をこの子は無自覚に
押し付けてくる



最近の娘……
という言葉で簡潔させるには
余りにも進みすぎた発育。

明るくて人なつっこい。
素直で裏表なく接してくれる
数少ない癒しの存在でもある。
……しかしだ。



なにがとは言わないが、正直つらいモノがある。

茉莉ちゃんはいいい匂いがする。
ああ、茉莉ちゃんだとすぐわかる
甘い香り。

それはまるでフェロモンのように、
男の本能を誘っているかのような…

っておいおい、なにを
考えてる？ 仮にも妹の娘、
ましてや●学生。

欲情するなど
あつてはならない。
あるハズがない!!

ねー、
おじさんっ

ん？

おしりに
あたつてる
かたいのなあに？

チンポには
勝てなかつたよ……



鈴口に触れる
吐息



限界は突然、
そして予兆なく
訪れた



……
ツ



ゴク……

おじさん、
おちんちん
どうしたの？



彼女のフェロモンに
あてられたのか、
あるいはその無垢な瞳と

淫猥な光景との
ギャップが決定打と
なったのか……

何年もせき止めていたものが
一気に決壊したようだった。

……茉莉ちゃん、
新しい遊びしたくない？

茉莉ちゃんは驚くほど
に疑いなく、乗り気で
その身を俺に委ねた

?

たーぱん

ちゅ

ハアツ……♡
ンツ♡

なんか……っ
変だよおっ♡

ハ♡

ハ♡♡

ギョウ

茉莉ちゃんは
おどろくほどに
"将来有望"だった

ギョウ

まだ誰も触れたことが
ないであろうそこに
触れるたび、彼女は
甘い声をあげ

戸惑いながらも
次第に、その未知の感覚を
受け入れつつあった。

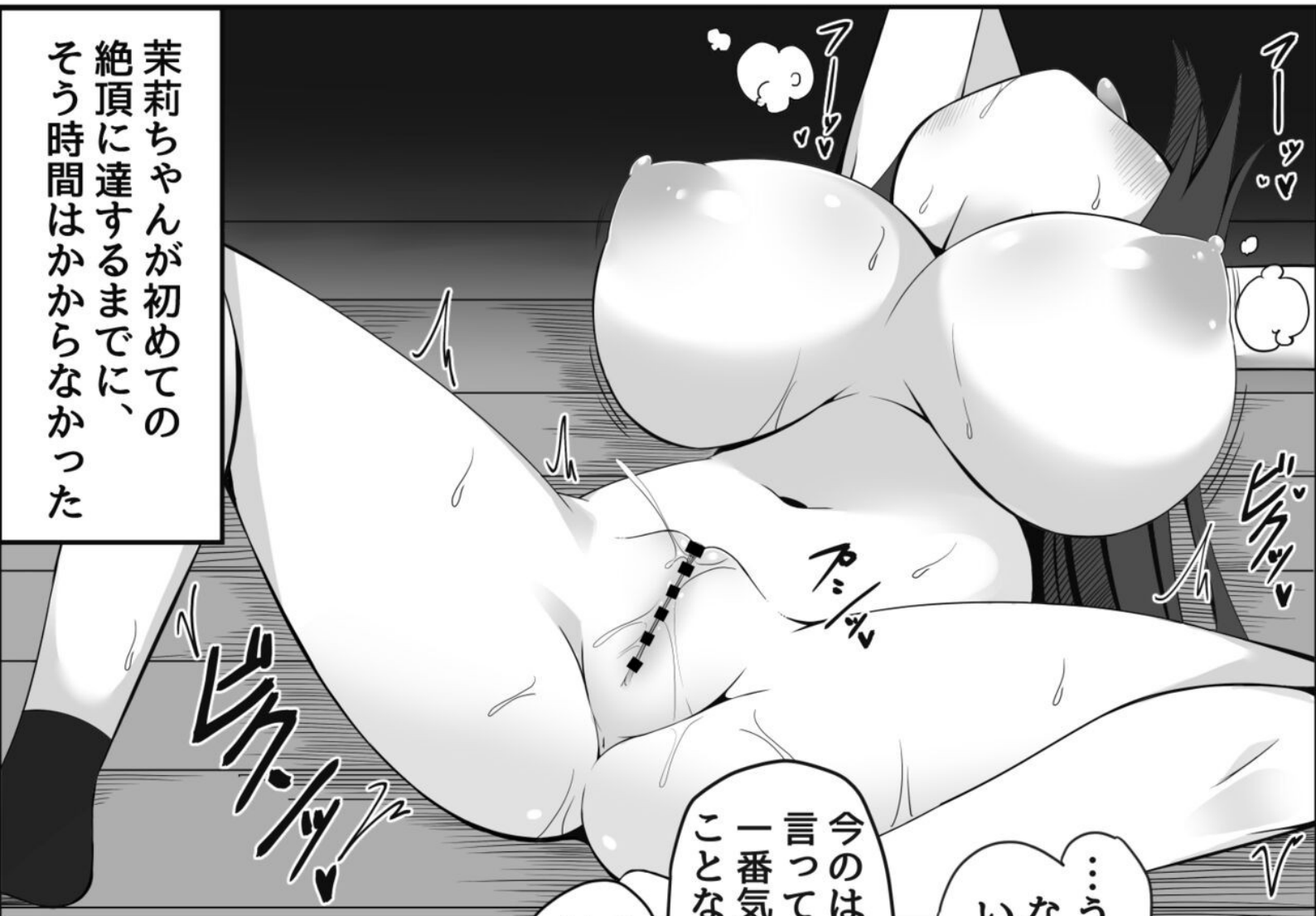


おじさんっ♡
おじさんっ♡

そんなところ
きたないよおっ♡



茉莉ちゃんが初めての
絶頂に達するまでに、
そう時間はかからなかった



気持ち
よかった？

…うん
なに？
いまのお…

今は「イク」って
言っ、女の子が
一番気持ちよくなれる
ことなんだよ

今度は一緒に
気持ちよくなってみる？

あ…



…イク？

これ…
おちんちん





一緒に？
そんなこと
できるの？

ああ、女の子のおまんこと
男のおちんぽがあればね

おまんこと
…おちんぽ？



ふふ…
まあね



すごい！

おじさん
なんでも知ってるね！



グニエウウウ

よく
覚えてね…

これが
セックスだよ!!

ルッ♡

ルッ♡

ズン

ううっ、すごいよ
茉莉ちゃん

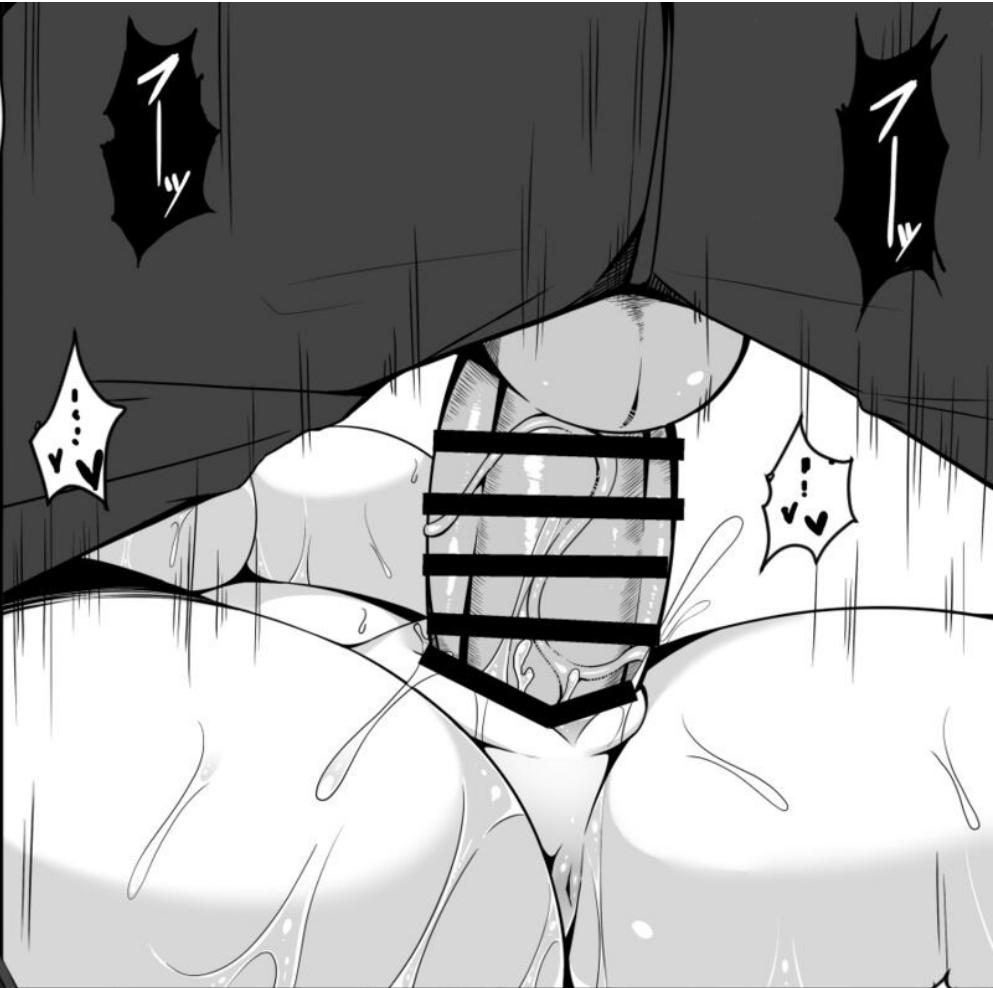
狭くてキツいの
にトロトロで柔らかい

？

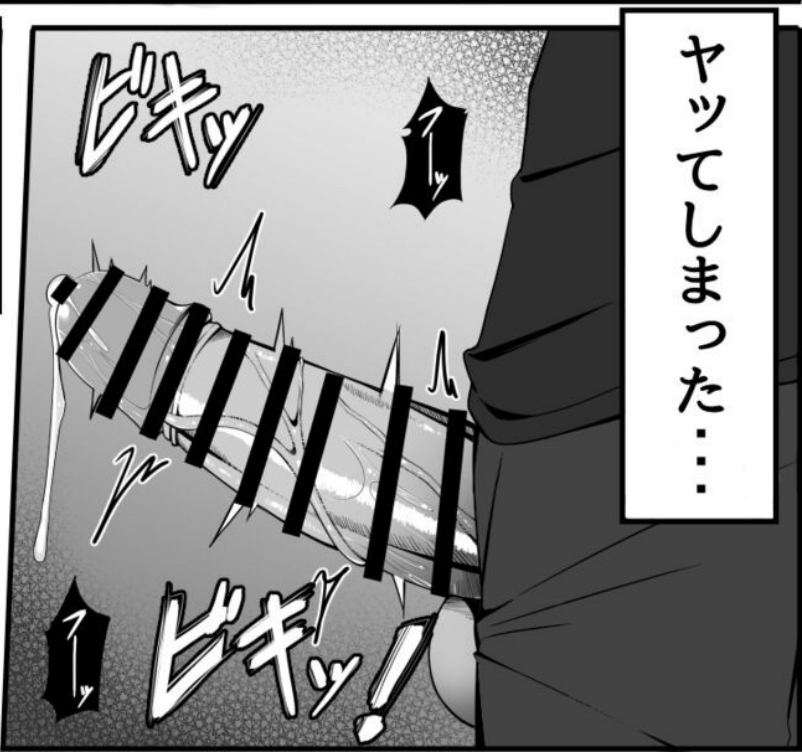
チカッ

？

チカッ



爆乳○学生に
種付け射精るッ



最初はただただ混乱する
だけだった茉莉ちゃんも、
次第に甘いメスの声を
上げ始めた。



それから
茉莉ちゃんとの秘密の
遊びは日常のものと
なっていた。

それはむしろ彼女から
望むことが多く、完全に未知の
快感の虜となってしまうていた。



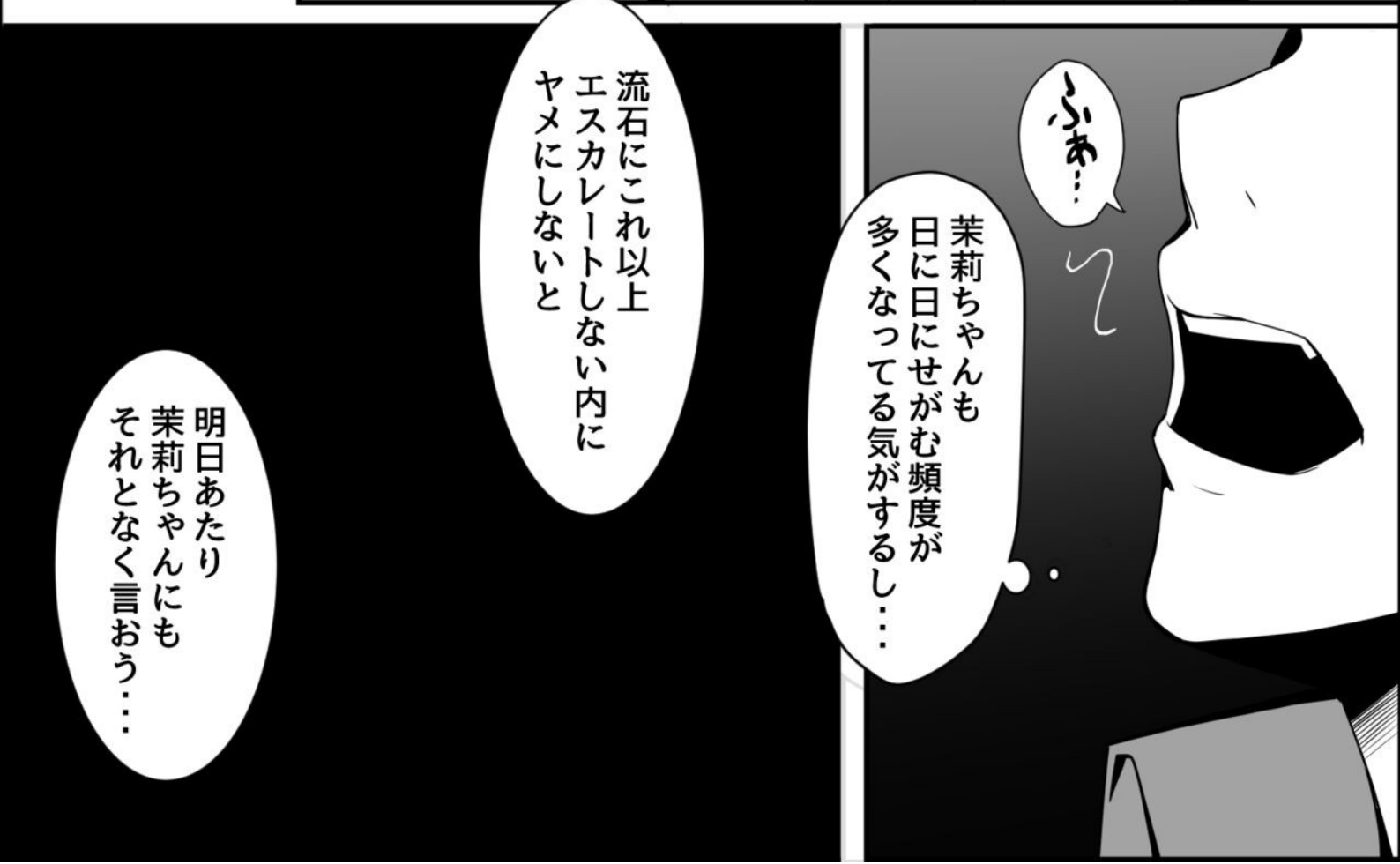
やっぱ
まずいよなあ……



勢いでヤツちまった
けど……



こんなのが
いつまでも続く
わけないよな



ふあ……

茉莉ちゃんも
日に日にせがむ頻度が
多くなってる気がするし……

流石にこれ以上
エスカレートしない内に
ヤメにしないと

明日あたり
茉莉ちゃんにも
それとなく言おう……







お、お掃除フェラ...

んんん
ちゅっ♡

んんん

んんん♡

んんん♡

れる♡

んんん♡

ここの娘は...

んんん♡

すごおい
さつきより大きく
なったあ...♡

ハ
ー♡♡♡

ハ
ー♡♡♡

ハ
ー♡♡♡
いくらなんでも
スケベ過ぎる...!!

おじさん
まつりわかってるよ？
最初はわからなかったけど...

んんん...

でもまつり、
ちゃんとないしよ
にできるよ？

せつくすって、
本当はいけない
ことなんだよね？

ドクッ

だからいいよね？
おじさん…

ドクッ

おじさんのおちんぽも
気持ちよくなりたいって
言ってるから…

んん

スニッ♡

せつくすっ♡

ハ
ー
ッ♡

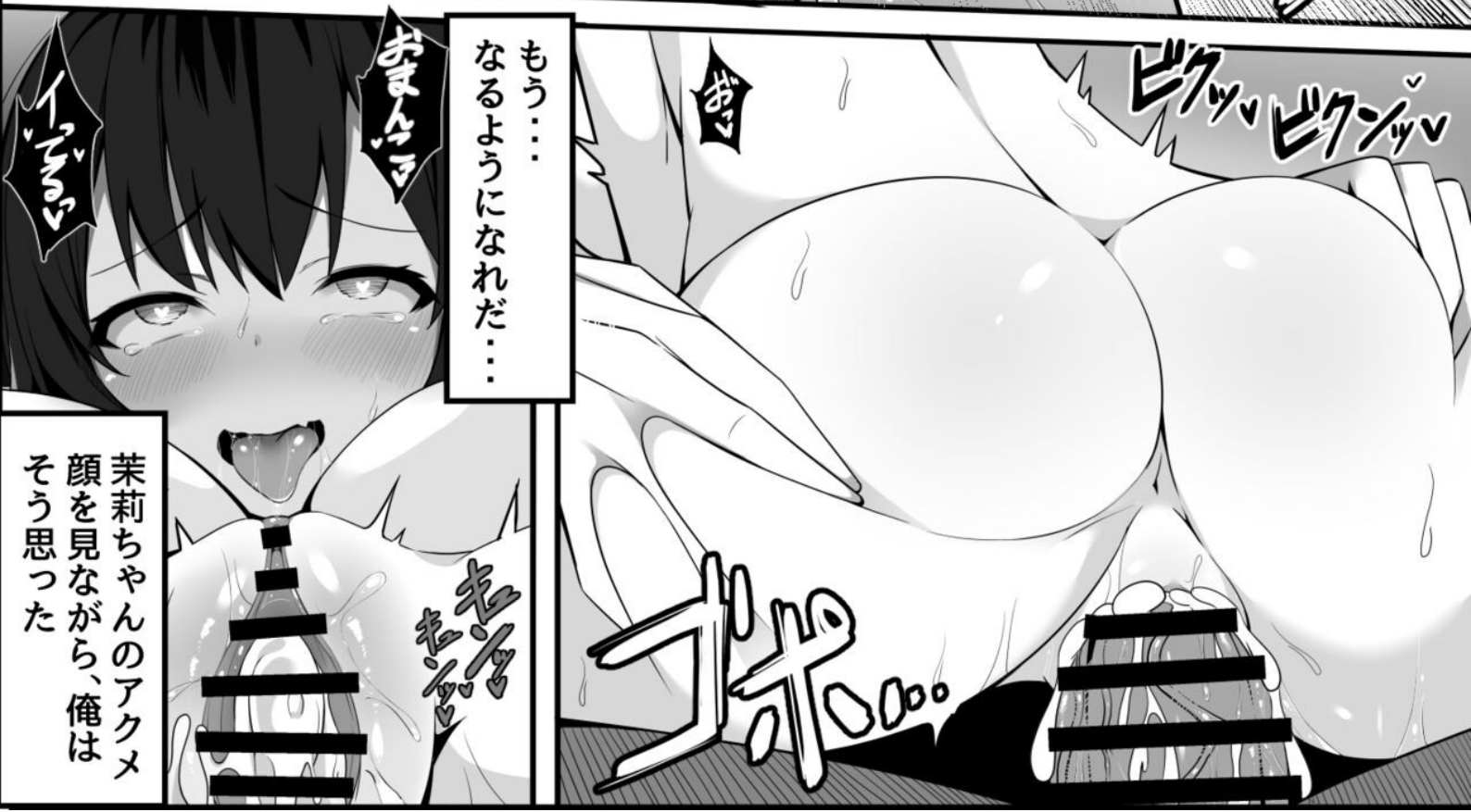
ハ
ー
ッ♡

いいよね…っ♡

ハ
ー
ッ♡







もう...
なるようになれだ...

茉莉ちゃんのアクメ
顔を見ながら、俺は
そう思った

それから行為は
お互いが力尽きるまで
続いた

おじさん

…きつと、この先も
なんだかんだでこの関係は
続いてしまうのだろう。
それだけ深みにハマってしまった。

彼女も…
そして俺自身も

オオオオ

「お兄ちゃんっこれすごいつ♡すごいつ♡
茉莉こんな遊び知らなかったよおっ♡」

「大人はみんな「子作りセックス」で楽しんでるよ
本当は子供には内緒なんだけどね
茉莉ちゃんかわいい姪っこだから、特別だよ♡」

「あっ♡ほんとぉ？みんなは知らないのに、
茉莉だけこんなきもちいことできるんだあ♡」



「ひうつ…!?なんかっ…くると♡
お兄ちゃんっなんかきちやうよおっ♡」

「それは「イク」っていうんだよ。
女の子はみんなイクとすぐく気持ちよくなれるんだ
イク時はちゃんとイクって言うんだよ?」

「イク…っ?イク…っ♡イクっ♡イクうつ♡」





「茉莉ちゃん、すっかり
種付けセックスに病みつきたね〜」
「だってえ…こんなきもちいの
やめられっこないもん♡」
「友達とあそんでる時もずっとお兄ちゃんの
おちんぼ欲しくて…我慢してたんだもん♡」

おちんぼ♡

もいっばい♡

ブルン♡

ポッ♡

ポッ♡

ポッ♡

ポッ♡

ポッ♡



「あゝまた射精そう」

「うんっ♡うんっ♡また中にお兄ちゃんの

せーえき射精してえっ♡」

「もうずっとイッてるからっ♡

いま種付けされたらせつたいすごいからあっ♡

お兄ちゃんのどろどろせーえき茉莉のおまんこに

いっぱい射精してえっ♡」

「イクッ…♡イクう…っ♡イクイクイクイクッ♡♡」

おっ♡

ブルン♡

だひてえ♡

ポッ♡

ポッ♡

ポッ♡

ポッ♡

ポッ♡



茉莉ちゃん、おなか大きくなったなあ」
「えへへっ♡おにいちちゃんが毎日おまんこに
せーえきいっぱい出してくれたからね♡」

あはっ♡

「それでも毎日ちんぽおねだりする
んだもんなあ…ほんとスケベな姪っこだよ♡」
「おにいちちゃんがまつりにいけない遊び
教えたくせにいつ♡
もうまつり、おにいちちゃんと種付けセックス
すること以外考えられないよお♡」

あはっ♡



「でもそろそろママになるんだから
ちよつとは我慢して身体を大事にしないと
...あつ射精る！」

あはっ♡

「うんっ♡射精してえっ♡

種付けセックスしなくてもまつりが我慢

できるくらいっ、いっぱい射精していっぱい

好き好きしてえっ♡」

「まつりももうイクからあつ♡

ママおまんこせーえきゴクゴクして

イツちやうからあつ♡」

あはっ♡



「おっ…♡おまんこイッてるう…♡つ
赤ちゃんもパパのミルクもらって
よろこんでるよお…♡」

「茉莉ちゃんもイッた？じやあ…」

おっ

「イクうつうつうつうつうつうつうつ♡♡♡」

おおおっ♡

「おっ!?♡おほおおおおお
おおおおお♡♡♡」

おっ
♡♡

トロ~~~~♡♡

「あっ……ひっ……♡」

おっぱいもおしも……止まらなくなっひやった……♡」

「どう？これで満足した？我慢できる？」

「はひい……♡まつり、おにいひやんのいうことなら」

なんでもききましゅう...♡

「おにいひゃん、らいしゅきい……♡」

おぉおぉお



「まさか茉莉ちゃんからスク水セックスを迫ってくるとは…」

「えへへお兄ちゃん、
こういうの好きでしょ？おちんぽ
いつもより硬くなってるし♡」

当然!!ロリスク水が嫌いな男なんて
この世に存在しないよ!!」





うひっ♡

「ああんっ♡そんなっ♡いきなり激しく突いたらおまんこびっくりしちゃうよおっ♡」

「茉莉ちゃんがエロ過ぎるからますます興奮してきた...!!もう一発目が射精ちまいそうだ...!!」

「うんっ♡いっぱい射精してえっ♡茉莉のおまんこ、もうずっと準備万端だからあっ♡」





「あー射精る射精る…
でもまだまだヤレそうだわ
ベッド行こっか？茉莉ちゃんも
完全にスイッチ入ったっばいし」

「あつ…♡イ、クう…♡
まつり、もっとおちんぽほしいのお
…♡」

おっ

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

あゝ

ベッドに移動して早々、俺の身体の上に跨る茉莉ちゃん。不釣り合いなまでに大きい乳房を揺らしながら一心不乱に腰を振る様は、まさにサカリのついた一匹の雌に他ならない。初めてセックスを仕込んだあの日以来、少女の性欲は日増しに大きくなっていった。

ひんぽ

しゅんぽ



ビュルルルルルツ!!

「イツ:グウウウツツ♥♥♥」

ド
グ
ッ

ド
グ
ッ

「もっとお...もっと欲しいのお...♥」



数時間後・・・

「いやゝ射精した射精した！」

そろそろ茉莉ちゃんも満足できた？」

「ひゃ、ひい…らいまんぞく、れしゅう…♡」



そう言いながらも俺のチンポを咥えこんだ
小さなおまんこは、まだ離したくないと
ばかりにキュウキュウと締めつけ続けていた。

「んひひひひまたイグうううっ♡」

茉莉ちゃんの性欲は、彼女のお腹が見るも明らかに膨らみ出し、子を宿しても留まることを知らず。歳不相応に熟れた身体で誘惑してくる少女に、俺も興奮を抑えることは出来なかった。

「このポーズっ、しゅきっ♡なんだかわかんないけどっ…おにいちゃんのモノにされたみたいでドキドキするのおっ♡」



「お腹の中に赤ちゃんがいるのに、茉莉ちゃんはスケベでいけないママだなあ」
「あかちゃん♡ごめんねえっ♡
ママ、あかちゃんいるのにつ、あかちゃん
みたいな格好して、おまんこでおちんぼ食べちゃってるのおっ♡」

「茉莉ちゃんほんと正回すぎっ…また射精すよっ!」
「だひてえっ♡あかちゃんもミルク欲しがってるからあっ♡
茉莉のトロトロおまんこももうイクからあっ♡
いっぱいおちんぼミルク飲ませてっ♡
イクッ♡イクイクイクイクイクイクイクウウツ♡♡」



1/2

おぉおぉお

「おおおおっ♡おまんこも赤ちゃんも喜んでるよおお♡

まつりすっごくイッてりゅのおおおっ♡♡」

「うおっ……ザーマン搾り取ろうと膣中がうねってる……！
やばい、これ、まだ……！」

「おおおおおおおっ♡♡♡♡♡



↓

A close-up of a hand holding a glowing, orange, flame-like object. The hand is rendered in a simple, stylized manner with white outlines. The object is bright orange and yellow, with a flame-like texture. The background is dark and indistinct.

4

44



空も白み始めた早朝、俺を起こしたのは目覚ましではなく、淫猥な水音と下半身に襲い来る快感だった。

「あっ♡おはよっおにーちゃんっ♡」

「茉莉ちゃん、こんな朝からなににして…っ

つかその格好なに!？」

「なについて、おはようの種付けセックスだよっ♡
おにーちゃん、こういうの好きなんだよねっ?
この前おにーちゃんのパソコンで見たからっ♡
お小遣いで買ったちゃったあっ♡」



「それは好き…っつーか最高!!
なんだけどちよつと一旦止まってっ…
起き抜けにもうっ…!!」
「だめっ♥もう止められないもんっ♥
まつりもうイクからあつ♥
もうおまんこおちんぽミルク
ゴックンする準備できてるからあつ♥
朝一ザーメンいっぱいドピュドピュしてええっ♥」
「うぐっ…おとおおっ…!!」



「イツツグウツツ♥♥♥♥」

「うおおっ……!」○の発情期まんこやべえっ……!

うねって朝一ザーメン絞り取りにきてる……っ!!」

「あへえ……♥一番搾りのザーメンミルクキクウ……ツ♥

まつりのおまんこ、もっともつと飲みたいって言ってるのお

……っ♥

当然、サカリのついた雌である彼女が一発限りで満足する
はずもなく、幼くも熟した膣肉は更に雄の子種を絞ろうと蠢き出す。



目にハートを宿らせ、大きな胸と
ボテ腹を揺らしながら腰を振りたくる少女。
こうなってはもはや、彼女の子宮が満ち足りる
まで解放されることはない。
ここにいるのは小さくも情欲に餓えた獣なのだ。

「おおおおっ♥赤ちゃんのお部屋とおにーちゃんのお
ちんぽがチュッチュしてるよおおっ♥
これしゅごいっ♥またイグッ♥イグイグイグッ♥」



甲高く上げられる絶頂の嬌声。
噴水のように絶えず吹き上がる母乳。
二人の間に水たまりができるほどに
腔内から溢れかえる精液。
それでも、いまだ彼女の瞳から劣情の
灯が消えることはない……

「イッグウウウウウッ♡♡♡♡」







「ぐうう…っ！」

「この子は人のせいにしてっ！
そんな悪い淫乱娘にはお仕置きだ！」

「してえっ♡赤ちゃんいてもおちんぽ
欲しがっちゃう悪いおまんこにお仕置き
ザーメン注入してえっ♡」

「クッソオオオ全然反省してない！」

「また発情メスガキ喜ばせるだけのご褒美ザーメン
射精る…ッ!!」

「きてへえっ♡♡♡♡」

「射精るツツツ」

「イグウウウウツツ♥♥♥」

「おおおっ♥おまんこにせーえき染みるう…っ♥
おにーちゃんのおちんぼ深く突き刺さって、
さきつぽが赤ちゃんのお部屋に入ってきてるのお♥
もっとな♥全部入っちゃうくらいっ♥
まつりのおまんこおちんぼとザーメンでいっぱいにしてえっ♥」



「おっ♡ほおおっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」
幾度のセックス、幾度の中出しを重ねていると、
茉莉ちゃんは次第に言葉を紡ぐ余裕も失くし、
およそ少女に似つかわしくない、サカリのついた
動物のような嬌声を上げ始める。
それが彼女の限界に近いというサインであり、
今までの最も大きな快感が訪れる予兆でもある。
熱に浮かされたような潤んだ目で、媚びるように
見つめてくる彼女に、俺のチンポはより大きく膨張し。



「おっへええええええええええ♡♡♡」

ドビユウウー! ビユ——ツ!! ビユ——ツ!!
プシユツ♥ビュルツ♥ビユ——ツ♥ぷしゅ——

「おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」

おほおおおおおおおおおおおおおおおおおおっ♡♡♡」

逆流するほどの大量射精を打ち込まれ、汗、愛液、母乳、尿……

汁という汁を吹き出しながら歓喜の声を上げ、よがり狂う茉莉ちゃん。

後に残ったのは、俺と彼女の体液にまみれてビクビクと痙攣する少女の姿だった。

「たねづけしえつくしゅ……しやい……」おぉ……っっ♡♡♡」

「おっ♡おにーちゃんっ♡
待って…っ♡もっ、もうっ♡
しんどいからあっ♡」

おにーちゃんっ♡

「ダメだよ茉莉ちゃん。

言ったでしょ？お仕置きだって」

「しよっ、しよんにやあっ♡」

「それにほら、茉莉ちゃんのおまんこは

喜んでるよ？やめないでってキュウキュウ締め付けてくる」

「おっ♡おおおっ♡」



「前から思ってたんだけど、茉莉ちゃんってマゾだよー。いじめられて気持ちよくなっちゃってるでしょ？」

「しょ、しょんにやいどっ♡おう♡」
「正直に言ってるじゃん？」

私はいじめられて喜ぶ変態マゾメスですって…ちゃんと言えたら、これからも

ずっと気持ちよくしてあげる」

「~~~~~っ♡♡♡♡♡

まっ…♡まっりは…っ♡

いじめられて喜ぶ変態マゾメスです…っ♡

これからも…っ♡いっぱいいいいじめてくださーいっ♡♡♡♡♡





「まちゆりはああっ♡
おにーちゃん専用のマゾメス
肉奴隷でしゅううつ♡♡いつでも
まつりで気持ちよくなってください♡♡♡♡」

認めてなにかのスイッチが入ったかのように、
俺のエロ漫画でも覚えたのであるう淫語を狂ったように叫ぶ茉莉ちゃん。
その意味を理解しているかは定かでないが、心からそれを望んでいるような、
支配されることを望む雌の顔そのものだった。

ほおおっ♡

「んっ♡♡♡おおおおおおっ♡♡♡」

「よく言えました♡」

そこから先は言葉は不要だった。
動物がそうしているように、
ただ本能に衝き動かされるままに、
互いの肉体を求め合い、快楽を貪っていた。





「んほおおおおおおおおお
おおおおおっ♡♡♡」

「ああんっ♡もうっ♡
お兄ちゃんがつつきすぎいつ♡♡」
「なにががつつきすぎなものかつ!!」
そんなハレンチな格好で誘ってきおっでからんっ!!」

あ、

は

10!

10!

10!

10!

10!

10!

「ち、ちがうもんっ♡
まつり、今日はうさぎさんの気分
だったただだもんっ♡
べっにおちんぼなんて欲しくなかったもんっ♡」

あ、

ん



「挿入れる前からマン汁ダラダラだった♡
んじや説得力ないんだよ！
デカ乳デカケツフエロモンムンムンで交尾
催促しやがって！そんなに種付けされたいかつ!!」

お、は

は

「まっ、まつりは悪くないもんっ♡
おちんぼ見たら勝手におまんこが媚びちやうような♡
エッチなうさぎさんにしつけたのはおにいちやんだもんっ♡
だからまつりはあっ♡いつでも種付けセックスしてもらえる♡
ように準備してるのおおっ♡♡」

「クソッなんてヤンチャな発情うさぎだ！だったらお望み通り種付けしてやるっ!!」



「射精るツツ!!」

「んおおおっ♡♡」

おっ♡
は♡

す♡

「おっ♡今日一番のおチンポミルクキくうっ♡
ぺこぺこのうさぎまんこがぐくぐく飲んじやってるっ♡
おまんこの中がいつもよりおにいちちゃんのこと好き好きって
キスしちやってるのおおっ♡♡」

おっ♡

グ
ン
ズ

ド
ッ

ド
ッ



「確かに今日はいつもよりヤケに子宮がチンポに

吸い付いてくるなあ…茉莉ちゃんの身体が孕みだがつてるとか？」

「はら…む…？まつり、あかちゃんできるのお…？」

「茉莉ちゃんは赤ちゃん欲しいの？」

「…まつり、赤ちゃんできたらおにいちゃんのおよめさんになれる？」

「ずっといつしよにいて、種付けセックスできる…？」

「あ…」

「ぐ…っ!!」

「まつり、おにいちゃんのおよめさんになれるなら、

あかちゃん、欲しいな…っ♡♡」

ズンツ!! 「おっ…!?♡」

「クソツッ!クソツッ!ちっこいくせに男のツポおさえやがって!!

かわいすぎるだろ!!このドスケベロリバニーが!!絶対に孕ませて一生俺だけの

モノにしてやるからなツツ!!」

101

101
ゴッ

「孕めツツツツ」

「おおおおっ♡

イッグウウウウツツ♡♡」

おおおっ♡

もはや着床準備は万全と言わんばかりに

降りきった子宮は激しく鈴口へと吸い付き、

最後の一滴まで子種を逃さんとする。

大小不釣り合いな2匹の獣による交尾は、夜が明けるまで続いた。



「ふふっ♡こんなお腹になっても
うさぎさんがいいなんて、おにいちゃんってほんとに
変態さんなんだあ…♡でもいいよ♡
ほら、ぴよーんぴよんっ♡♡♡」

俺の身体に馬乗りになり、ぴよんぴよんと上下に跳ねる少女。
その運動に合わせて揺れる、小さな体には不釣り合いなほど
巨大な胸肉と、すっかり大きく膨らんだ腹。
そのある種いびつな姿は俺の情欲をますます駆り立て、彼女も彼女で
身重でありながら有り余る性欲は健在だ。



「んああっ♡おちんぽビクビクして膨らんできたあっ♡
もうおちんぽミルク射精ちやうの？
いいよっ♡我慢しないでっ♡おかあさんうさぎとあかちゃんうさぎ
に特濃ザーメンミルクゴクゴク飲ませてっ♡」

「ほーら、ぴよんぴよんっ♡
ぴよんぴよんっ♡」

「ぐおおおっ……！上下するたびに膣内がキツく収縮するっ
なんてスケベな回り妊婦まんこなんだっ……うおおおおおっ！！」

ブルッ♡

ブルッ♡

10分♡

10分♡

「んおおおつ♡
ザーメンミルクきたあああ♡」

はぁはぁはぁ♡

おっ♡

「おまんこにチンポミルク染み込んでるううっ♡
あかちゃんもパパのミルクでよろこんでるよおっ♡
まつりもミルク出ちゃうのおおおっ♡
もつとっ♡もつとおまんこでチンポしごいてあげるからっ♡
もつとチンポミルク射精してえっ♡♡」

ドッ♡

ドッ♡

数十分後……

「あへっ……♡種付けせつくしゅ……
さい、こお……ぴよん……♡」

最初こそ余裕があったものの、何度か中出しと
絶頂を繰り返すうちにすっかりとアへ堕ちしてしまう
ザコロリビツチな茉莉ちゃん。

絶えずイキ続けているのか、まるで射精のごとく
ビュービューと止まることのない射乳が続いている。

そんな墮落しきった彼女を見てみると、俺のチンポは衰えるどころか硬さを増した。

ポ

ゴ

「あんっ♡ま、まだするのぉ？
まつり、ちよっとなつかれちゃった……♡」
「またまた、本当は攻められるのを期待してたけど」
「そ、そんなことっ——おっ♡」
茉莉ちゃんのおまんこはそうは言っていないけどね

「てか、このやり取りで気持ちよくなっちゃってるでしょ？
だって茉莉ちゃんは、いじめられて感じちゃうマゾメス」●だもんね？
それともやつぱりお預けする？たまには我慢を覚えさせるのもいいかも」
「……やらっおちゃんはおあずけやらあっ♡
うそついてごめんないやいっ♡まつりはいじめられて気持ちよくなっちゃう
わるいマゾメスなのおっ♡
だからもっともっとおチンポ様でおいおきしてっ♡いっぱいいじめてえええっ♡♡」

10
10
あっ♡

10
10
♡

10
10
♡

「じゃあちゃんとおねだりしないかね？
サカリのついたメスうさぎらしく、ご主人さまになんてお願いするのかな？」

「は、はいっ♡まちゆりはあ…ご主人さまのおチンポがないと
生きていけないダメダメなマゾメスうさぎですう…♡
ご主人さまのためならまつり、なんでもしますから…
ダメなマゾまんこにおめぐみザーメンくだしやいっ♡♡」



ドクンツツツツツツツツ

「…ツ!? おお おお おお つつ ♡♡」

イグウツ♡イグウウウウ♡ウツ♡♡

↑

「んおおおおおおおっ♡イクの止まらないいい♡♡
マゾメス発情まんこっ♡おしおきされてごほうびもらってうれしくて
ずっとキュンキュンイツてるのおおっ♡♡
ご主人しやまああつ♡もつとまつりのこと、しつけてくだしいいい♡♡」

「あへっ……♡んおっ……♡」
「おにいちゃん……ご主人しやま……
らいしゅき……」

えへ

ビクッ

ビクッ

お

ドロ……♡

ム

ア……

球……♡

完全にマゾメススイッチが入った茉莉ちゃんは、
半失神になるまでひたすらに種付けを求め続けた。
薄ら笑いのアへ顔でビクビクと痙攣しながら小さく喘ぎ続ける少女。
完全に意識を失っていないながらも、チンポを咥え込む膣内はまだ離したくないと
ばかりにキユウキユウと締めつけ続けていた……